

病害虫発生予察注意報 第6号

富山県農林水産総合技術センター所長

ダイズ吸実性カメムシ類の多発に注意

県内全域でダイズ吸実性カメムシ類が多く、今後、子実被害の増加や大豆の青立ちの発生が懸念されます。このため2回の基本防除を徹底するとともに、基本防除後も発生が多い場合は、追加防除が必要です。

◎病害虫名 ダイズ吸実性カメムシ類

1 発生地域：県下全域

2 発生程度：多い

3 注意報発令の根拠

(1) 大豆の病害虫発生予察定点調査ほ場にて払い落とし調査を行ったところ、払い落とし頭数は0.58頭と平成14年から最も多い（図1）。

(2) 払い落とし調査では、全てのカメムシが平成より多く、特にイチモンジカメムシとトゲシラホシカメムシが多い（図2）。

(3) 8～9月の気温は高いと予報されており、カメムシ類の活動が活発になると予測される。

4 防除対策

(1) 莢伸長期と子実肥大期の2回の基本防除を確実に実施する。

(2) 基本防除後もダイズ吸実性カメムシ類がほ場内で確認される場合は、追加防除を確実に実施する。

(3) 山際等の常発地では、事前に追加防除を検討する。

(4) 薬剤抵抗性の発達を回避するため、同一系統の薬剤の使用を避ける。

【留意事項】

※農薬散布にあたっては、事前に周辺住民等に対して十分な周知に努め、周辺作物や住宅地等への飛散防止を徹底するとともに、農薬の使用回数、使用時期等の基準を遵守する。

※養蜂が行われている地域では、農薬散布前に養蜂業者へ連絡するなど、ミツバチの危害防止対策に努める。

【参考資料】

◎カメムシ類生息密度調査結果

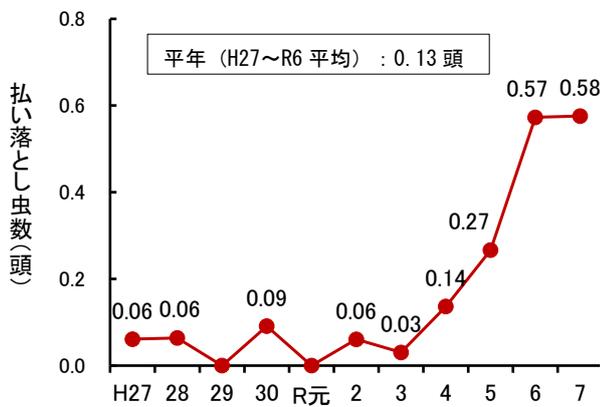


図1 払い落とし頭数の年次推移 (8/10 調査)

※1.8m間払い落とし調査

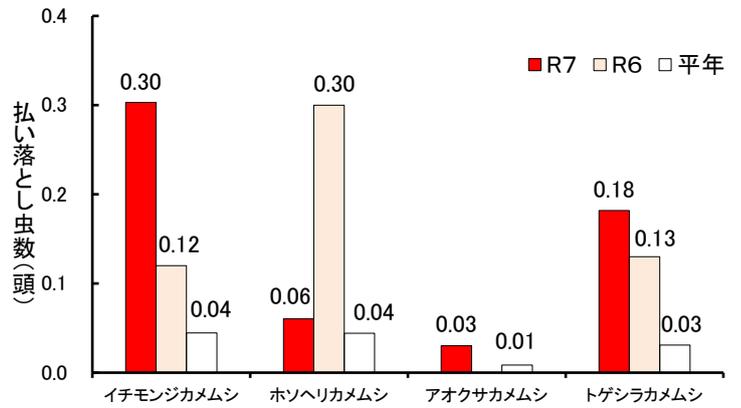


図2 吸実性カメムシ類の種類別の払い落とし頭数 (8/10 調査)

※1.8m間払い落とし調査



イチモンジカメムシ



ホソヘリカメムシ



トゲシラホシカメムシ

写真1 ダイズ吸実性カメムシ類



写真2 吸実性カメムシ類による被害粒



写真3 吸実性カメムシの加害による大豆の青立ち症状

問合せ先 農業研究所 病理昆虫課
TEL076-429-2111 FAX076-429-2701